

ボール運動系における運動の楽しさやよさを感じる体育授業の工夫

～「ゴール型」の効果的な教材選択と戦術学習を取り入れた授業モデルに ポイントを押さえた発問や言葉掛けを加えて～

特別研修員 体育 新井 裕 (小学校教諭)

児童の実態

- ・運動に対する自信がない。
- ・運動している児童と、していない児童の二極化。
- ・「できた」という実感が少ない。



教師の願い

- ・運動することを楽しみ、好きになってほしい。
- ・「できる」を実感してほしい。
- ・「する」以外の関わり方も知ってほしい。



手立て1

ゴール型の教材選択

多様な児童が経験を問わず
運動に親しむ機会を獲得できる

- ・ルールの工夫を必要としない
- ・誰でも活躍できる

実践1：アルティメット



戦術学習を取り入れた授業モデル

課題を自分事として捉え、
仲間との対話を通して技能の向上や連携を図り、
上達の実感がもてる

ゲーム①→練習→ゲーム②

実践2：タッチラグビー



手立て2 ポイントを押さえた発問や言葉掛け

課題発見のための発問

ゲームどうだった？何か課題が見つかった？

ゲーム①を見た教師のフィードバック

パスは繋がったかな。キャッチはどうだったかな。

練習計画を立てるための発問

キャッチミスしないためには、どうしたらいいかな。

課題解決のための発問

パスをもらう人は、どう動いたらいいかな。

課題発見のための言葉掛け

ゲーム①で、上手くいったところ、
いかなかったところを見付けようね！

ゲーム
①

課題の気付き

- ・パスをもらう前に、手、体、心の準備をしよう。
- ・ボールをもった人の斜め後ろにいて、前に動きながらパスをもらおう。

チーム練習に関与する言葉掛け

その練習、もっとこうしたらどうかな。

協働的な学習を促す言葉掛け

今の練習を兄弟チームに共有してごらん。

目的意識をもった練習

- ・走ってくる人の前にタイミングよくパスするといいよ。
- ・アイコンタクトも大事だね

練習

発展的な学習を促す言葉掛け

連続的な攻撃にするにはどうしたらいいか、
話し合っって練習してごらん。

(児童の様子)

走りながらのパスが1人から2人、3人へと連続攻撃の動きが見られた。

ゲーム
②

賞賛の言葉掛け

練習の成果が出ていたね。
動きながらパスをもらえていたね。

上達の実感

- ・前よりパスが繋がった。
- ・走りながらキャッチできた。

(児童の感想)

- ・体育の授業が楽しかった。
- ・もっと体育がやりたい。

成果

- 競技特性上、ボールを持っていないときの動きに視点が絞られ、相互に連携を図りながら練習している様子が見られた。
- 振り返りで9割を超える児童が「楽しい」と答えた。
- 教師の発問により課題に気付き、目的意識をもった練習になったことで、ゲーム②での上達の実感をもつことができた。

課題

- 課題に気付かせる教師の発問が、児童の感じる課題とかみ合っていることが必要である。
- 児童にとって未経験のスポーツは、特性を理解させるのに時間を要する。ICTを効果的に使い、短時間でルールの理解を進める必要がある。